

# 図書館情報学橘会会報 第2号(通号8号)

2005年7月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

7月23日(土)14時～ 日本図書館協会研修室において  
茗溪会支部図書館情報学橘会  
第2回総会を開催します

## 支部図書館情報学橘会、正式に発足

図書館情報学橘会は、社団法人茗溪会と調整を重ね、平成16年度より社団法人茗溪会の

支部としての活動を開始していましたが、このたび、平成17年5月26日(木)に開催された社団法人茗溪会総会において、名称も含め審議され、正式に社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会として承認されました。略称は橘会です。

## 橘会の新ホームページを公開！

3月24日、社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会の新ホームページを公開しました。

橘会の基本情報のほか、イベント・行事案内、事務局から会員の皆様へのお知らせ、会報バックナンバーなど、橘会に関する情報を幅広くかつタイムリーに提供していきます。また、会員の皆さまの活動状況も積極的に紹介していきます。ホームページに関するご意見や掲載してほしい情報、アイデア等がありましたら、是非事務局までお寄せください。皆様のご支援、ご協力をよろしく願いいたします。

## 同窓会HPの立ち上げにあたって

図書館情報学橘会会長 高鷲 忠美

橘会の本格的なHPを今回立ち上げる事になった。情報を簡単により迅速に会員の皆さんに送るために、前から考えていたことではあるが、何より理事のみんなが日常生活において大変忙しいということがネックになっていた。(言うまでもなく、30,40歳代の理事が今回の中核である。それを森副会長が大変適切にまとめてくれて、このHPができあがった。)

橘会は、筑波大学図書館情報専門学群、図書館情報メディア研究科(もちろん、その前身校も含む)の同窓会である。直近の図書館情報大学の卒業生は、第1期生が40歳代の半ばにさしかかり、まさに社会の中心とし

で活躍している。なかなかこの年代の方たちは、同窓会活動に目をやる暇もないかもしれないが、その方たちの日常生活で何かの役に立つ情報を提供し、またより若い卒業生にはそのキャリアアップなどの役に立つ情報を提供したいと、このHP開設に当たり考えている。ぜひとも、皆様方の積極的な提言などをいただき、会員相互の情報交換の場

になれば幸いである。図書館短期大学、図書館養成所などの卒業生の皆さんも、どうか積極的にこのHPを利用し、ぜひともご意見を活発に寄せて頂きたいと願っている。

会員相互の意見交換の場として、筑波大学の我々の後輩諸君との交歓の場として、ぜひともこのHPを利用して頂きたいものである。

## 図書館情報学橋会公式ホームページ



<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/tachibana-kai/>

### <メニュー紹介>

- ・ 会長挨拶
- ・ 橋会について
- ・ 母校の沿革
- ・ 会員の皆様へ

- ・ 入会案内
- ・ 会報
- ・ 会員の広場
- ・ ギャラリー
- ・ 関連リンク

## 藤川正信先生を偲んで

元図書館情報大学長 藤川正信先生(享年 82 歳)におかれましては、病氣療養中のところ、平成 17 年 3 月 10 日(木)午前 0 時 5 分(カナダ現地時間)に逝去されました。ここに謹んでお知らせ致します。

藤川正信先生略歴 大正 11 年(1922)4 月 13 日生。愛媛県出身。ジョージピーボデー大学大学院図書館学修了。慶應義塾大学文学部、大東文化大学経済学部、図書館情報大学教授を経て、1987 年 10 月第 3 代学長に就任。1991 年退任。のち愛知淑徳大学教授。著書に『第二の知識の本』(新潮社)、『情報管理実務講座 第 4,5,8,9』(共著、日刊工業新聞社)などあり、翻訳者としても『海の野生動物』(レス・ライン、ジョージ・レイガー編著、旺文社)、『白いきば』(ジャック・ロンドン作、学習研究社)、『床屋医者パレ』(カルボニエ著、福武文庫)など幅広い訳書がある。

### 藤川正信先生を偲ぶ

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科  
教授 植松 貞夫

藤川正信先生は、図書館情報大学の草創期にあつて情報組織化論講座を率いて、図書館情報大学の教育・研究のあり方、図書館情報学の学としての形成に多大な貢献をなされた。しばしば行われた「図書館情報学とは」の議論では、該博な知識を背景に独特の論理構成で展開される先生の理論は、高尚かつ難解であった。

本来は、副学長、第三代学長としてなど、先生の図書館情報大学と図書館情報学に関する貢献とその軌跡をたどるべきであろうが、紙幅の関係や本誌の趣旨から、近くにいた者が感じた先生の人となりや記述することにしたい。実は、その方が先生も喜ばれるのではないかと思われる。

藤川正信先生を語るキーワードとしては、カッコいい、英語の達人、車・スピード、タバコなどであろう。

#### (1) カッコいい

とにかくダンディでありスマート。「図書館情報大学要覧：1988」は、高く積み上げられた本の横でポーズする学長の写真が巻頭を飾る異色のもので、まさに絵になる学長であった。

#### (2) 完璧な英語

野添篤毅(愛知淑徳大学)教授から、「藤川さんの書いた英文をネイティブにみてもらったら、「こんなにうまい英語の書き手が日本人か」と言われた」と聞いたことがある。

そのルーツは、占領軍文化情報部の図書館勤務のようである。加藤秀俊氏(日本語国際センター所長)の文章を拝借すれば、『第一に、図書館の使い方が体験的に身についたのである。同僚のひとりに慶応大学の学生で藤川正信さんがいた。かれは、この体験をつうじて図書館学にすすみ、慶応の図書館学科の先生になった。第二に、ここで英語の本を読むことをおぼえた。日本の誰よりもはやくアメリカから送られてくる新刊書を手にする特権がここにはあった。そのうえ上司はことごとくアメリカ人だし、司書の資格を持っている人びとであったから、わたしの英語の表現もビシビシとなおされた』(一部略)。

先生はその後、1951年開学のジャパン・ライブラリースクールで創設者ギトラー氏に能力を認められ、55年まで講義の通訳をされた。そして、56年からは教員として「参考業務」を担当している。その縁で、米国人教員のひとりフランシス・チェイニー女史の勤務するジョン・ピーボディ大学に留学されている。

#### (3) 車・スピード

先生を語る時に車は外せない。愛車家ではなく、フェアレディZなどを更にスピードが出るように改造するスピードマニアであった。「ど

ここで「キロだした」とかの自慢話はしばしば、それだけならまだしも、「急に割り込んできたので、すぐ後ろについてあおってやった」など武勇伝も楽しげに話された。トラブルに備えて運転席の脇にゴルフクラブを置いていたのは事実である。副学長や学長時代は比較のおとなしめの車で自重されていたのは気の毒であった。

#### (4) タバコ

先生は着任された時から塩分の摂取制限をされていた。そのせいもあってか、あまり食事には関心がなかったように思われるが、その代わりヘビースモーカーであった。当時の会議は喫煙可であり、先生の周りは常に紫煙に包まれていたが、奥様からは節煙を命じられていたようである。

#### (5) 謎の人物

以上書いてきたが、本当のところは謎の人物である。雑談はいつも相当に「まゆつば」とも思われる昔話で、例えば「刺繍のデザインで生計を立てていた：これは授業中にも語っていたそうだから本当かも」、「戦闘機に乗っていた」、「医学を学んでいた（これも本当らしい）」などである。交友範囲についても多くを語られなかったが、開学10周年記念式典の講演者にゴルゴ13の作者さいとう・たかを氏を招聘したのは先生の力であった。どこからか南太平洋の島の長期滞在型リゾート施設計画を受託されたこともあった。

退職後はバンクーバー郊外に移住されたので、お目にかかる機会は少なかった。私がカナダに行った折りに、奥様が体調不良で会うことができなかつたのが残念である。慎んで哀悼の意を表したい。

## 真っ赤なフェラーリと藤川先生

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科  
教授 中山 伸一

藤川先生といえば、誰もが先生の車の運転を思い出されることでしょう。某先生が一度

東京まで同乗したがそれ以降二度と先生のお車に近寄らなくなってしまったとか、常磐高速で東京に行くときにキップを切られて帰りもつかまったがまけてもらったとか、暴走族の車に対抗するため木刀を車に乗せていたとか、某建設会社の名前入りのヘルメットをよく見えるところに乗せて走っていた、などなど枚挙にいとまがありません。私も、何度か先生のお車に乗せていただきました。確かにスピードは出しますし、車線変更も頻繁でした。しかし正確な運転をなさっておられたので、不安に感じることはありませんでした。先生は大胆なように見えてその実細やかな神経の持ち主でありました。

先生が副学長をなされていた頃、お疲れ気味の先生のリフレッシュという意味で釣り倶楽部一同が先生を海にお誘いしたことがありました。釣り場に着くと先生は新品の投げ竿をおもむろに取り出され、慣れた手つきで遠投をもくもくと繰り返しておられました。我々はその横でサビキ仕掛けで小さな魚を釣り上げて喜んでいても一向に気にする気配はありません。何となく先生の生き方が表れていたような気がしたものでした。

さて、私は今赤いフェラーリの1/24スケールダイキャストメタルモデルを前にこの原稿を書いております。これは先生の仕事を少しお手伝いした時に、私の子供にと先生からいただいたものです。お心配りに感謝しつつ子供のおもちゃにはもったいなので大切に飾っております。先生はフェラーリが大好きで、お金があれば赤いフェラーリに乗りたいたいものとおっしゃっておられました。

最近の大学をめぐる状況は先の見えない道の上を走っているようなものです。このモデルカーを見ていると、頭を悩ませながらそんな道をとろとろと走っている私のおんぼろ車の脇を、先生が運転なさる真っ赤なフェラーリが走り抜けて骨太の道を指し示してくれないかなあ、という思いが頭をよぎりました。合掌。

## 『図書館情報大学史』の編集を了えて

正誤表の処理を終わり、漸く一段落したところである。カリキュラムの変遷など出来る限りデータを残すことを意図したが、意図通りに実現したところも、データの欠落などに苦しんだところもある。完全なデータの保存にはほど遠いとしても、ほぼ 20 人近くの多くの執筆担当者の協力があり、そのお蔭で史料集としてはまずまずの出来ではないかと思っている。ここに記載されたデータによって図書館情報学を理解して頂ければ幸いであるが、それにしても図書館情報学はまだまだ解りづらく見えにくい部分が多い。石井啓豊さんに「図書館情報学の展望」をお願いしたのもそうした理由からで、かなり無理なお願いをしたが、この論文でかなりの展望点に立つことが出来たのではないかと思っている。正史の部分は、歴史の経のこれまでの水面下の動きを識らずにただ事実を追う結果となった。なによりも大学は統合後もまだマグマ溜まりの中にあり動きを已めていないのである。評価には時がまだ熟しておらず、後世改めて正史を書くひとが現れることを期待したい。ダスト・ジャケット裏に採用した「ピュタゴラス」像について、何故ピュタゴラスかとの疑問も出よう。一言贅言を付け加えておきたいと思う。

この像はシャルトルのノートルダム大聖堂の門扉に刻まれた木彫の写真から採用したものである。シャルトルの青で有名なこの聖堂のステンドグラスには、「巨人 (=古代人)の肩に乗る矮人 (=中世人)」の図柄が見られ、中世人の古代学芸への限りなき尊敬の念が意匠化されている。この大聖堂の創建は 1194 年であり、日本では鎌倉幕府創業間もない時代にあたるが、神と自然秩序と人間の理性の調和を説くシャルトル派ユマニズムの学者たちを生み出した学問の殿堂であった。大聖堂の門扉にはピュタゴラス像のほかに

も文法の女神像やアリストテレスの像などが刻まれている。

ピュタゴラスは「ピタゴラスの定理」で有名であるが、彼は万物は数の関係により秩序あるコスモスをつくると考えたが、宇宙を秩序あるものとしてコスモスと名付けたのも彼が最初であると云われている。ピュタゴラスはオルペウス教の説く靈魂の不滅と輪廻と死後の応報を信じ、魂の浄化のために禁欲と戒律への服従を重んじ、魂を鎮める音楽と永遠不変の真理を教える数学の研究に精進する学団を形成し、その学団は密儀宗教の形を採ったと伝えられている。

なにやら西洋風密教の感じが漂っており、さらにディオゲネス・ラエルティウスはピュタゴラスについて不思議な伝承を伝えている。ピュタゴラスはそもそもアイタリデスとして生まれたとされる。アイタリデスはヘルメス神の息子と信じられ、ヘルメスは彼に、不死以外のことなら何でも叶えてやろうと云ったのに対して、アイタリデスは生きている間も死んでからも、自分の身に起こった出来事の記憶を保持できるようにして貰いたいと頼んだというのである。アイタリデスの魂は死後エウポルボスに生まれ変わったが、エウポルボスは自分がアイタリデスであったこともその後の魂の遍歴も、死後冥界での苦痛もすべて記憶していたと云う。エウポルボスの魂はヘルモティモスへ、ヘルモティモスからまたデロス島の漁夫ピュロスに、ピュロスからピュタゴラスにと魂は遍歴を繰り返し、こうしたことすべてをピュタゴラスは記憶していたと云う。靈魂を知識に置き換えると、不死と靈魂の遍歴は、知識の永遠の遍歴と伝承ということになる。われわれもまた図書館を通してこうした経験をしている錯覚に捉われないだろうか。

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科  
教授 寺田 光孝

## 平成 17 年度からの会費について

図書館情報学橋会が社団法人茗溪会支部になったことに伴い、会費は「社団法人茗溪会会費納入規則」の適応を受けることとなりました。「社団法人茗溪会会費納入規則」の詳細については、茗溪会のホームページに掲載されていますのでご確認ください。また、橋会独自の賛助会費や維持費の制度もあります。

### 【茗溪会会費】

入会金：3000 円

年度会費：3500 円(うち 350 円は支部会費)

学生会員：年度 1000 円。

年度会費 35 回分納入者はその後の会費納入義務はなくなる。入会后 5 年以内に年度会費 25 回分納入者はその後の会費納入義務はなくなる。

### 【橋会独自の会費】

賛助会費：茗溪会会員以外の者で橋会の活動に賛助する(年度 2000 円)。

維持費：橋会会員で茗溪会費完納の者が、橋会の活動維持のために任意で提供する(年度 2000 円)。

なお、既に旧橋会に年度会費 2000 円を数年分一括納入している会員については、その残額がある間は、その残額から茗溪会費を支出します。その手続きは事務局で行います。

『図書館情報学橋会会報』は会員のためのメディアです。皆様からの投稿をお待ちします。思い出、近況、活動状況など原稿をお寄せください。

## 新会員番号のお知らせ

図書館情報学橋会では、社団法人茗溪会支部となったことに伴い、旧橋会における会員番号を廃止し、新たに、社団法人茗溪会における会員番号を付与することとなりました。

新たな会員番号の付番規則は、数字 8 桁で構成され、和暦元号識別コード(2 桁)、和暦コード(2 桁)、支部コード(1 桁、橋会は“9”)、会員識別コード(4 桁、通番)でなりたっています。

それぞれの会員個人の番号については、第 2 回橋会総会の開催案内に同封されていますので、ご確認ください。

橋会では、今後、この新番号により会員把握を行っていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

### 橋会ホームページ「会員の広場」への投稿を歓迎します。

橋会会員の活動状況を紹介する記事を希望します。

原稿文は、添付ファイルで橋会のアドレスに送ってください。

投稿者が橋会員であることを確認するために、投稿に当たっては、必ず氏名・卒業校名、卒業年及び茗溪会支部橋会会員番号を付記してください。意見原稿や不適切な内容などがある原稿は採用しない場合があります。

社団法人茗溪会支部図書館情報学橋会

〒305-8550 つくば市春日 1 - 2

E-mail tachibana-kai@slis.tsukuba.ac.jp

(メールアドレスが変わりました)

公式ホームページ

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/>

tachibana-kai/

発行：2005 年 7 月 1 日